

イケスで生息実験

水俣病 水産庁調査班が来熊

水産庁水俣病現地調査班の松江東大教授ら七人は二十八日午後二時十分着下り急行「きりしま」で水俣駅に着き、ただちに水俣市役所を訪れ市長室で中村市長、緒方商工観光課長らとあい、こんどの調

査について打ちあわせたが佐々木同庁技官はつぎのように語った。

近く水俣湾内にイケスを設置し、このなかに湾外でとれた魚貝類をせい息させ実験することになるのでその下検分してきた。

このイケスの設置場所は一日調査して決めるがいまのところ恋路島近くの船の航行のじゃまにならないところに八角形のフロート(二辺の長さ三・三メートルの浮きパイプ)の周囲に網をはりめぐらしその中に鋼管を入れ、さらにその周辺にいかりを置いて固定し、この中に半年間ぐらい湾外の正常な魚貝類をせい息させたらうで広島市の内海区水産研究所に送り、水銀の濃度などについて分析したり動物にたべさせ実験する。水俣湾も昨年いらいすつときれいになり、状況もちがっているといわれるのでその点についてもみてみたい。

一行はこのあと市役所から新日笠に向かい、同工場で行なっているネコの実験結果などをみたあと同夜は同市に一泊、一日午前イケスの設置場所などについて現地調査するが、一部内海区係官をのぞき二日帰京する。